



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

我が社のISO(その35)



株式会社 岸本組
品質管理部長
久保 博務

「我が社のISOシステムについて」

株式会社 岸本組は、佐賀県の北西部、俗に上場地帯と称される地域の中心部玄海町に位置し、創業明治44年以来、土木建築請負業として唐津市、東松浦郡内を主要基盤とし佐賀県一円で営業を続け、昭和27年に法人となり、今日に至っています。

当社は画一的スタイルに甘んじることなく絶えず新しい水を引き込み、自己革新、継続的革新の出来る企業集団を目指し“住み良い環境作りを目指す株式会社岸本組”のキャッチフレーズのもと、さまざまな開発や施工の実績を重ね、快適な地域環境や住まいを創造しています。

『ひとが自然と調和しながら生きていく環境づくり』の実現に夢を託しながら、当社が未来へ進む道と信じ今後も歩みつづけていきます。

当社のISOへの取組みは、『高品質の建造物を恒常的に提供し顧客の信頼を獲

得する』ことを品質方針として経営を行い、業務の合理化を推進し、徹底した文書管理による円滑なる取引を目指してきましたが、高度な情報化社会に対応すること、また、責任体制を明確化し顧客が満足する製品やサービスを供給するためには、従来のシステムの見直しと体質改善の必要性を感じ、その手段としてISO9000シリーズ規格要求事項を加味した品質保証のしくみを構築する為、社長のトップダウンにより平成10年に県内の建設業の本社として初めてISO9002規格による審査登録を行いました。

まず準備として平成8年10月、本社に品質管理部を発足させ、翌平成9年度より1年間マニュアル、規定類の作成を行いました。平成10年から、社内導入を行い、書類審査、実地審査を受け、平成11年1月にISO9002の認証登録を済ませました。その後、平成13年に1回目の更新と2000年版への切り替えも同時に行い、平成13年12月25日付でISO9001:2000版登録、平成21年第10回サーベイランス時にISO9001:2008版への切り替えを行い、平成21年12月25日付でISO9001:2008版登録となっています。

品質管理部の発足当初は、何から手を付けてよいか解らない状況でしたが、すでに認証取得していた企業を訪問し、内容等の説明・指導を受け、理解を深めることとしました。そして事前調査と社内の現状把握の着手を行い、その後、5名がかかりきりになりマニュアル、書類の作成に着手することとなり、約1年を要し、マニュアル、規定、帳票の書類が

完成し、予備審査、実地審査を経て認証取得にこぎつけたと当時の管理責任者より聞いています。私は二代目の管理責任者・品質管理部長として平成14年11月より現在至っています。先輩たちが苦勞して築き上げたあげたシステムを絶やすことなく、継承することが私の使命と考えています。

また、労働災害・交通災害など当社においても件数は少ないが絶えることがなく、重大な労働災害を未然に防止し、安全で快適な職場づくりの仕組みが必要と考え、職場にどんな危険源、有害源（ハザード）があるかを調査し、その危険源、有害源に作業者が接触して労働災害や健康障害が起きる可能性をリスクとして特定し、特定したリスクの大きさを見積り、対策の必要性と優先度を決定し、必要な対策を実施して災害を未然に防止する経営システムである労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS 18001:2007 の認証取得を平成27年に目指すこととなり、品質管理部、総務部が中心となり検討し、初回（1次）審査、初回（2次）審査を経て、平成28年1月1日付けにて認証登録が完了しました。

ISO 9001:2015 年版登録への移行も控えており、現在、早急な対策を講じる検討を重ねています。

今後も方針の徹底と目標達成のために努力すると共に、顧客情報を分析して、顧客満足を第一と考え継続的な改善の為努力いたします。

株式会社 岸本組

1911年 創業

主な事業内容：

建築物の設計、工事監理及び施工

土木構造物の設計及び施工

不動産の管理及び販売

所在地：佐賀県



我が社のISO(その36)



株式会社 藤木工務店

技術担当部長

(前管理責任者)

宮岡 賢二

「2015年版移行審査を終えて」

～マネジメントシステムの完全リセット～

当社の品質・環境マネジメントシステムは、今年7月の品質9回、環境6回目の審査の受審に合わせ、ISO 2015年版への移行審査を完了しました。

今回の大きな改定の目標として、規格改正を機会に倦怠期に入っていたであろうシステムの運用を“完全リセットする”とし、業務の流れの再確認を行い、必要なプロセスを明確にし、これらのプロセスに規格要求事項を当てはめていくという作業を進めました。

当社のシステム文書は、2008年版からプロセスアプローチを導入しており、すべてプロセスフローの形式で作成していたため、全体の構成には大きな影響はなかったといえます。

～システム文書の大幅削減～

大きな変更点は、いかに書類を減らすか、かつ、2015年版の要求事項をいかに理解しやすい表現とするか、に重点をおきました。経営者の理解のうへ、品質・環境マニュアルの廃止を筆頭に規定類の内容をプロセスフロー(図.1参照)のみで構成し文書表現を大きく削減、様式類の見直しや社内LANへの手順の移行などに取組み、結果、従前のシステム文書の1/2程度の削減を行いました。

このうち、品質・環境マニュアルにつ

いては、規格の裏返しの記載になる感が否めないため、思い切って廃止を行いました。(建築センター審査員の方々には、審査しづらいと思いつつ・・・)

改定作業のうち、苦勞した点は、決定したプロセスに対し、インプット→アウトプット、支援、監視・測定、基準・指標と多くの要求事項をどのように表現していくかでした。

また、新要求事項である組織の課題、利害関係者のニーズ及び期待、並びにリスク及び機会の取組みの計画をシステム内でどのように処理していくかにも時間が必要でした。

最終的には、取組む課題、著しい環境側面、順守義務に対し、どのプロセスで取組むかを明確に表現することで、理解しやすいものになったと考えています。

最後に、2015年版への移行に際し、システム審査部の規格説明をはじめご支援に感謝いたします。

株式会社 藤木工務店
 1920年 創業
 主な事業内容：
 建築物の設計、工事監理及び施工
 所在地：大阪府



図 1.【プロセスフロー図の事例】

| | IN | インプット | プロセス責任部署(者) |
|---|-----|---|-------------|
| 文書・記録管理 | 手順 | 業務手順と内容 | |
| | OUT | アウトプット | 判断基準・指標 |
| マネジメントシステム 文書 7.5.1 (QMS/EMS) 文書の制改定 | IN | マネジメントレビューのアウトプット等 | 文書作成者 |
| | 手順 | 文書の制定は以下の場合 ①経営者によるマネジメントレビュー等 ②内部監査、外部監査の結果等 | |
| | OUT | 制改定の決定 | — |
| 7.5.2 (QMS/EMS) 文書の作成 | IN | 文書の制改訂情報 | 文書作成者 |
| | 手順 | 文書の制改訂は、文書ごとに定めた作成責任者がまとめ全社 MS 管理責任者に提出する等 | |
| | OUT | 文書制改定案 | — |

～今後の活動～

当社のマネジメントシステムは、製品実現、維持保全業務については運用が定常化され、大きな問題なく推移しています。今後は、システムを更に有効に運用することで会社の持続的成功に直結することを社員に理解してもらい、目的意識を持ったプロセスの運用に重点を置いた活動を進めていきたいと思ひます。

ISO 45001 (労働安全衛生マネジメントシステム) の開発状況について

ISO 45001 の開発状況は、今年の秋には発行されると思われていましたが、2016年5月に国際規格案 (DIS) の投票が行われ、その結果が否決されたことにより、当初の予定から半年から1年程度ずれることとなりました。

今後のスケジュールは、ISO/DIS2 45001 が作成され、2016年の10月の総会でDIS2 が承認されれば翻訳期間 (約2カ月) を経て、2017年の1月か2月からDIS2 の投票を行い、4月か5月に投票結果が判明します。賛成国が多数の場合は最終国際規格案 (FDIS) をスキップして国際規格 (IS) の発行となります。

まだ反対があれば最終国際規格案 (FDIS) を作成し、DIS2 と同様に投票にかけられ、2017年の9月か10月に国際規格 (IS) として発行される予定です。

JIS 規格としては、IS 発行後概ね2カ月ほどで翻訳されますので、早くて2017年の夏から秋、遅くても来年末になると思われます。



労働安全衛生マネジメントシステム 認証業務のお知らせ

一般財団法人 日本建築センター システム審査部（BCJ-SAR）では、品質マネジメントシステム認証業務及び環境マネジメントシステム認証業務に加え、労働安全衛生マネジメントシステム認証業務も行っております。

◆認証取得にあたって

認証の手続き等については、既に品質マネジメントシステム及び環境マネジメントシステム認証業務でご経験のある認証取得と同様の手順で実施いたします。

◆認証に係る料金について

既にBCJ-SARにて品質マネジメントシステムや環境マネジメントシステム、またはその両方を認証取得されている組織様には、認証に係る料金については特別価格とさせていただきます。

◆認証登録組織のご紹介(2016. 8. 1 現在)

OHS-0001 松清産業株式会社【鹿児島県】
土木構造物の施工

OHS-0002 株式会社 加覧組【鹿児島県】
土木構築物の施工

OHS-0003 株式会社 文元建設【鹿児島県】
土木構造物の施工

OHS-0004 有限会社 徳田組【三重県】
土木構造物の施工

OHS-0005 株式会社 岸本組【佐賀県】
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の設計及び施工
不動産の管理及び販売

OHS-0006 株式会社 新津組【長野県】
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の設計及び施工

OHS-0007 神稲建設株式会社【長野県】
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の設計及び施工
浄化槽の維持管理

労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得をお考えの組織様におかれましては、是非お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部
担当：梅澤、山貝
TEL：03-5283-0476
FAX：03-5281-2827

■ 2016年度認証判定会議の 日程は下記のとおりです ■

品質、環境、労働安全衛生とも同日開催です。

当センター（東京都千代田区）にて開催致します。

| 2016年（平成28年） | |
|--------------|--------|
| 9月28日（水） | 13:30～ |
| 10月26日（水） | 13:30～ |
| 11月22日（火） | 13:30～ |
| 12月21日（水） | 13:30～ |
| 2017年（平成29年） | |
| 1月25日（水） | 13:30～ |
| 2月22日（水） | 13:30～ |
| 3月22日（水） | 13:30～ |



■これから2015年版移行を受 審される組織の皆様へ

2015年版への移行審査は、今年末から来年度にかけて、非常に多くの組織様が予定をされておりますので、時期によりましては、審査が混み合い、希望される時期に審査を実施することが困難な事も予想されます。

つきましては、貴社担当のシステム審査部窓口担当に、早めの審査日程を相談されますことをお勧め致します。

また、再認証審査にあたりましては、「マネジメントシステム認証申請書」(品質/環境/労働安全衛生)及び「マネジメントシステム申請者調査表」の提出が必要となります。申請書及び調査表は、一般財団法人 日本建築センターホームページよりダウンロードできます。

(<http://www.bcj.or.jp>)

また、システム審査部では、認証組織の皆さまに、現行規格から2015年の新規格にスムーズに移行して頂けるよう、できる限りのサポートをさせていただきます。

規格の解釈がよくわからない、どのように移行の準備を進めたらよいかわからない等、何かお困りのこと等がございましたら、お気軽にご相談下さい。

【お問い合わせ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部 審査課
TEL：03-5283-0476
FAX：03-5281-2827
E-mail：sinsa@bcj.or.jp

編集後記

今回は『我が社のISO』について、2社の組織の方々にご執筆頂いたものを掲載いたしました。是非、ご一読下さい。



-無断転載を禁ず-

